

## これまでの部会における主な議論

区 分	議 論
部会の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 部会のミッション、役割を明確にする必要がある。</li> <li>○ 各回の検討課題について、事前に提示して欲しい。</li> <li>○ 先に議論の方向性を示す必要があるのではないか。</li> <li>○ 政策的な根拠に基づいて議論していくことが重要。</li> <li>○ 各団体からのヒアリングについては、様々な意見があるのでバランスよくヒアリングをすることが必要。</li> <li>○ 発言できなかった場合には、別にペーパーを出させていただきたい。</li> </ul>
障害者の範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発達障害、高次脳機能障害、難病など障害者の定義付けを見直すべき。</li> <li>○ 権利条約の批准に向け、現行の「医療モデル」から「社会モデル」への転換を考えるべき。</li> <li>○ 「医療モデル」が必要な部分もあり極端にならないような議論が必要。</li> <li>○ 手帳の交付対象になっていない人を対象から外していることは問題。</li> <li>○ 知的障害者福祉法も身体障害者福祉法も障害者基本法の水準に追いつくべき。</li> <li>○ 手帳の意味というものをもう一度考えるべき。</li> <li>○ 障害者手帳の交付に際し、年齢制限を設けることができないか。</li> <li>○ 福祉とは別の分野で、障害の範囲として認定されることを望んでいる人もいる。</li> <li>○ これまでサービスの必要性の認定の議論と社会参加施策への参加要件の議論が混乱している。</li> <li>○ サービスの必要性の認定の議論をした時に、標準化の議論をするのか、個別化の議論をするのかによって方向性が違う。</li> <li>○ 精神障害者手帳について、交通機関などでの優遇が少ない。</li> </ul>
サービス利用状況（利用者負担を含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 緊急措置後の実質的な利用者負担が3%となっているのは、1割負担に問題があることの裏返し。</li> <li>○ 利用者負担を課すにあたっては、利用者負担の合理性、正当性があるものに限るべき。</li> <li>○ 数字の推移だけを見るのではなく、その背景を示すことが必要。</li> </ul>
相談支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相談支援について財政的な裏打ちが必要。</li> <li>○ 精神障害者に対し、実際に訪ねていくような継続的な相談支援が大事。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 早期発見のため、乳幼児期から、心配であればすぐに相談ができるような体制が必要。</li> <li>○ 市町村の保健師の相談機能を強化するにあたって、現状では市町村の格差が大きい。</li> <li>○ 障害者の相談員が相談事業を行えるような形の組織を作り上げていくべき。</li> <li>○ 相談員の資質向上が重要。</li> <li>○ 自立支援協議会の機能は重要であり法令上の位置づけを明確にすべき。</li> <li>○ サービス利用計画費の対象者の大幅な拡大を議論すべき。</li> <li>○ ある程度多くの相談支援事業者ができて、近くで相談ができるような体制が本来のあるべき姿。</li> <li>○ ケアマネジメントの適切な実施をチェックする仕組みが必要。</li> <li>○ ケアマネジメント従事者、サービス管理責任者、サービス提供責任者の関係を整理して、利用者に必要なサービスが提供できるようにすべき。</li> </ul>
権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 虐待や権利擁護についての法的な措置が必要。</li> <li>○ 障害者権利条約の批准にあたっては、障害者虐待防止の法制化は避けて通れない。</li> <li>○ 障害者虐待防止法制を検討する際は、児童虐待防止法のような踏み込んだ仕組みを目指すべき。</li> <li>○ 目の前で起こっている虐待の相談に対して、すぐに応えられるようなシステムが必要。</li> </ul>
地域移行（住まい）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 財政的理由から地域移行を誘導していると捉えられることが多く、自立支援法の理念がうまく実行されていない。</li> <li>○ 精神障害者の退院足進のための受け入れ条件の整備が重要。</li> <li>○ 精神障害者の退院足進の流れを踏まえれば、知的障害者については、100%が退所支援の対象とならなければならない。</li> <li>○ 入院、施設入所の段階から地域移行後までを含めた継続的なケアマネジメントが重要。</li> <li>○ 親の安心感を得るため、CHなどの夜間の支援体制を厚くすることが必要。</li> <li>○ 身体障害者のためのGH、CHが必要。</li> <li>○ 公営住宅について、もっと積極的に活用すべき。</li> <li>○ 施設と個人の住宅の中間的なものが必要。</li> <li>○ 入所施設が果たすべき役割を明確にし、職員の処遇も考えていくべき。</li> <li>○ 精神障害者の退院足進については、クライシスハウスのような社会資源が必要。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ GH、CHIは単価が最大の問題。</li> <li>○ 重度の人でも地域で生活できるようGHの体制を整備することが行政の役割。</li> <li>○ 地域移行が進んでいないのは、国庫負担基準と障害程度区分ごとの単価の問題が大きい。</li> <li>○ 民間賃貸住宅の入居を進めるため、公的保証人制度に取り組むべき。</li> <li>○ 刑事施設にいる人の地域移行の問題を考えていくべき。</li> <li>○ 居住サポート事業の全国展開が必要。</li> <li>○ 地域移行の中には、施設の自己負担ができなくなって家庭に帰っているという現状もあるのではないか。</li> <li>○ 精神障害者のいやしの場的なものがなくなっており、困っているときに来てくれる相談や 24 時間の電話相談のようなものが欲しい。</li> </ul>
就労支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 雇用率算定の要件緩和が必要。精神障害者の特性にあった就職先の確保が必要。</li> <li>○ 企業支援について、税制改正以外のアプローチも考えていくべき。</li> <li>○ 就労移行が進めば、移行後のフォローなど事業そのものも新しいサービスに移行していくことが必要ではないか。</li> <li>○ 障害者雇用については、労働部局、教育部局も取り組んでおり、一度施策を整理した上で、強化すべきことを決めていくべき。</li> <li>○ 特別支援学校の入学者が急増しており、卒業の際に一時的に福祉で支援していく必要が増えるが、学校側がきちんと準備をしている分、福祉の質も向上しなければならない。</li> <li>○ 福祉の現場では、地域の企業等で十分働ける方がたくさんいる。本人に選択肢を広げるようにすべき。</li> <li>○ 福祉現場の受注増のため、年間を通じて安定的に供給できるよう集団での受注を進めるべき。</li> <li>○ 食事、移動、トイレといった介護が必要な方の就労のため、必要な支援ができるような仕組みを考えるべき。</li> <li>○ 学校から企業に移る際、生活寮や通勤寮といった住まいの保障が重要。</li> <li>○ 雇用率については高い目標設定が必要。</li> <li>○ 就労移行支援に携わるサービス提供者を支えるべき。一般就労への移行が進むほどつらい状況。</li> <li>○ 働く場での利用料はおかしい。</li> <li>○ 福祉施設から一般就労への以降が1～2%という状況について、何か問題なのかしっかりと考えることが必要。</li> <li>○ 就労支援と生活支援は本人の自立に向けての車の両輪。</li> </ul>